



令和6年4月10日

国立研究開発法人 森林研究・整備機構

森林総合研究所 林木育種センター 北海道育種場

## 北海道記念保護樹木「当別神社の開拓記念樹」の後継樹が里帰り

### ー林木遺伝子銀行 110 番による巨樹・名木等のクローン増殖の取組ー

#### ポイント

平成30年台風21号によって大きな被害があった「当別神社の開拓記念樹」の後継樹の苗木が、国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター 北海道育種場から里帰りします。

#### 概要

国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター北海道育種場（北海道江別市）では、我が国の貴重な林木遺伝資源の保存を図るとともに、品種改良等に活用することを目的とした林木ジーンバンク事業を実施しています。

この事業では、各地の天然記念物や巨樹・名木等の収集・保存を行うとともに、事業の一環として、要請により後継樹を増殖する取組である「林木遺伝子銀行 110 番」を行っています。

今回は、当別神社から増殖の要請を受けた「当別神社の開拓記念樹」（イチイ）の後継樹として、つぎ木によって増殖し育てた苗木が里帰りします。

里帰り日時：令和6年4月26日（金） 10時

植樹場所：当別神社（当別町元町 51-12 当別神社境内）

#### 問い合わせ先

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター

北海道育種場（平日 8:30~17:15） Tel:011-386-5087 Fax:011-386-5420

事業責任者：遺伝資源管理課 課長 にしおか 西岡 なおき 直樹

担当者： 収集管理係 いらい 岩井 まさたか 大岳

広報担当者：連絡調整課 連絡調整係長 やまぐち 山口 きょうへい 恭平

本資料は、北海道庁道政記者クラブに配布しています。

## 背景・経緯

全国には、学校や神社など身近な場所で地元の人々に親しまれ、ふるさとのシンボルとなっている天然記念物や巨樹・名木等が数多く存在します。こうした巨樹・名木等は、長い年月にわたって、風雪に耐え生育し続けているので、自然環境に対する適応性や抵抗性に優れている可能性が高く、林木遺伝資源として貴重なものです。一方で、樹木の中には衰弱しているものもあり、後継樹を増殖することが求められていました。

このため、林木育種センターでは、これら巨樹・名木等の収集・保存を進めるとともに、所有者等からの要請により衰弱している樹木の後継樹を増殖し、里帰りを行う取組である「林木遺伝子銀行 110 番」を平成 15 年から実施しています。これまでに、全国から 333 件の要請があり、255 件の巨樹・名木等の後継樹の里帰りを実施してきました（令和 5 年度末）。後継樹は、さし木やつぎ木で増殖したクローン苗木であり、親木と同じ遺伝子を持っていることから二代目として大きく成長することが期待されます。

## 内容

今回、里帰りする「開拓記念樹」は、当別神社に所在する推定樹齢 400 年のイチイで、北海道記念保護樹木に指定されています。当別町史によると明治 4 年、仙台支藩岩出山藩の踏査隊が当別移住に先だちこの地に到達した折り、記念樹近くに露営したといわれています。また最初の入植地 聚富<sup>しつぷ</sup>から当別までの 5 里 7 町（約 20.4km）を伐り開いたときの終点でもあることから、藩主 伊達邦直<sup>くになお</sup>の視察に合わせてこの樹の下に宴をはり、労をねぎらったといわれるゆかりの樹木でもあります。

しかし、平成 30 年 9 月の台風 21 号により、隣接していたハルニレの大樹が倒れ、幹などを折損する大きな被害を受けました。その影響で樹勢が衰えたため、当別神社から「林木遺伝子銀行 110 番」の依頼を受け、令和 2 年につぎ木を行い、13 本につぎ木クローンの増殖に成功しました。その後、苗木は順調に生育し、屋外に植栽しても生育できる見込みとなったことから、このうち 6 本が当別神社に里帰りすることになりました。

## 図、表、写真等



「当別神社の開拓記念樹」（台風被害後）



後継樹